

製本のススメ

Vol. 109

爽やかな季節 初鰹が美味しい・・・と思いきや 今年には漁獲量が少ないとか。気候の温暖化が食卓の文化も変えつつあります。ああ美味しい鰹が食べたい！

今回は「**揃える**」の話し

さて 今回は製本に限らず印刷作業にも、ちょっと必要な基本の基本を少々。

昨今 **紙を揃えられない人が増えている**と思った事はないでしょうか？少なからず紙を扱う職業に携わっているのに、紙を揃えられないのです。むろん全判の様な大きな紙は、紙揃え機でないと手早くは揃いませんが、菊四程度の大きささえ紙揃えできない。**これは技術の不足と同時に、仕事に向かう心構えの不足が原因です。**

紙はデリケートで、それらを無造作に掴んで揃え機に入れ、強引にブルブルっと揃えてしまうと、一見良さそうに見えますが、実は紙の縁が折れ製品の仕上りに悪影響を出しています。さて『揃える』という作業にはどんな効果があると思いますか？

- ① 数量や分量の確認と異形・異種の発見(揃える事で他と違うものがわかり易い)
- ② 次の作業を効率よく進めるための準備(不揃いでは、印刷機に入りませんね)
- ③ 紙1枚では気付かなかった汚れや不良のチェック(針飛び等は、これで確認)
- ④ 刷り本移動時における紙の縁の保護(製本は紙揃えが命！縁は大切です)
- ⑤ 製本工程への安心とプレッシャー(笑)

①～④までは、ぜひとも印刷現場でお願いしたいところですね。印刷機のデリバリ部分もしっかり調節され、パレットにきちりと積み替えられていると、製本加工部門にも緊張感が自ずと生まれます。特にAモや感圧等の薄い用紙は伸びやすく、伝票等は罫線も多くあり印刷から製本まで、紙揃えが出来ていないと全く製品になりません。印刷業界はデジタル化も進み あらゆる人たちが印刷できるようになりました。しかし、相手が紙である以上 揃え作業は重要不可欠！製本加工はもちろんですが印刷加工であっても、しっかりと紙を扱えるように心がけていきたいものです。



Teabreak

そろそろ梅干し作りの時期になりますが、シソの葉を入れる方も少なくないはず。紫蘇の「蘇」はお正月の屠蘇の「蘇」と同じで悪魔を意味しますが屠は葬るという意味が有り、屠蘇は魔除けになる訳です。紫の蘇と書くシソは、まるで悪魔の様ですが実は解毒作用が大きく、古くから魔除けの植物とされてきました。梅の酸とシソの解毒は、食物の傷みややすい時期にぴったりの保存料ですね。しかも美味しい！日本の食文化は やはり素晴らしいですね。

by (株) 井関製本